

趣旨

「これからの時代を生きる子どもたちが学び育つ場としてどんな学校がよいか」を主軸に、安心・安全で学びやすく、通いたい・通わせたいと思われる魅力的な小中一貫校をつくるために必要な学校像、校区、学校の場所等についての考え方を計画案としてまとめています。

現状

校舎の状況

ほとんどの校舎が40年以上経過していて、更新時期を迎えてます。また、津波浸水想定区域に立地している学校もあります。

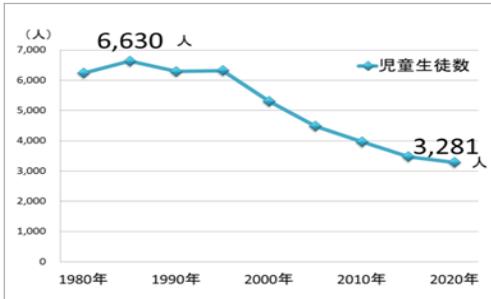
【各学校の一番古い校舎】

学校名	築年数	学校名	築年数
相良小学校	47	細江小学校	50
菅山小学校	39	勝間田小学校	56
萩間小学校	55	坂部小学校	58
地頭方小学校	55	相良中学校	45
牧之原小学校	50	榛原中学校	48
川崎小学校	52	牧之原中学校	42

※御前崎市は御前崎市が管理市のため掲載していません。

児童生徒数の推移

児童生徒数は、現在、ピーク時の約半分に減少しています。出生数の減少幅から、今後も減少していくことが予測されます。



学校数と規模

牧之原市の子どもたちが通う学校は、全部で13校です。そのうちの3校は学校組合として他市と一緒に運営しています。

● 小学校

- ・相良（3）・菅山（1）・萩間（1）
- ・地頭方（1）・川崎（2）・細江（2）
- ・勝間田（1）・坂部（1）・牧之原（1）

● 中学校

- ・相良（5）・榛原（6）・牧之原（1）
- ・御前崎（4）

※（）の数は1学年の平均クラス数
緑色は学校組合

目指す学校像

目指す学校像 「みんなの学校」

- ・子どもたちが「学校が楽しい！」と思える子ども主体の学校
- ・みんなで子どもを育てる「共育」の学校

育くみたい力

次代を切り拓く力＝人間力（主体性・社会性・気付く力・コミュニケーション力等）

小中一貫教育

キーワードは「つなぐ」

9年間のつながりある学び育ち

- ・小学校・中学校が同じ狙いを持ち、お互いの授業を意識することでよりよい学びにする（一貫した指導）
- ・「できた・分かった」輝く子ども
- ・着実なステップアップ ゆるやかな段差によるバランスのよい育ち
- ・教科専門性への対応

多様な人との交流

- ・たまごさ・自己肯定感
- ・切磋琢磨できる環境
- ・一定の集団（クラス替えができる規模）の中で違う考え方の人と触れ合い自分の生き方を見つける
- ・異学年、地域といった多様な年齢や立場の人と触れることでさまざまな考え方を知る
- ・インクルーシブ教育

コミュニティ・スクール

いろいろな体験

- ・授業の学びと実体験・実社会をつなぐ
- ・牧之原だからできるリアル体験を大切にする
- ・地域・家庭・学校が一緒に子どもたちに地域愛を育む

キャリア教育

時代が変わっても教育内容、ライフスタイルに柔軟に対応できる施設・設備

特別教室の位置 広い廊下
可動式仕切り 50年後も使える仕様
など

愛される施設

- ・つくり手と使い手が一体となった施設
- ・魅力ある環境

教育活動を支える施設の機能

I C T 環境	ユニバーサルデザイン
木のぬくもり	地域と共有できる機能
共同職員室・たくさんのスタッフがいる広さ	メンテナンスのしやすさ
エコスクール	など

土台・基礎となるもの

安心・安全

- ・災害に強い（場所と建物）
- ・適正な管理ができる規模と質（限られた人とお金・後後に不安を残さない）
- ・通学も安心（通学路と通学手段）
- ・見える学校（目が届く・たくさんの中を見る）
- ・保健衛生環境が整っている（感染症対策がしやすい）

目指す学校づくりのための5つの基本方針

● すべての子どもが主役の学校

すべての子どもにとって、学びやすく活動しやすい教育環境を、子ども主体で考えます。

● 「次代を切り拓く力」を育む学校

一人一人の可能性を伸ばし、次代を切り拓くために必要な人間力を育むことができる環境をつくります。

● 安心・安全な学校

児童・生徒、教職員等が安心して学校生活を送れるよう、市民にとって最も不安な災害である津波の浸水想定区域外に、各種災害に強い学校施設をつくります。

● 地域の未来を担う子どもを育てる学校

地域の人が関わり、地域の資源や行事を通じて、子どもたちが地域愛を育むことができ、学校がみんなの場所となるようにします。

● 働きやすく充実した指導ができる学校

教職員が働きやすく、充実した指導ができる組織体制と施設環境を整備します。

5つの基本方針を実現する 小中一貫校をつくるには

I 規模

1学年3学級以上を 基本

- ・開校時の規模・長期的に単学級にならない
 - ・次代を切り拓く力を育むには一定の集団が必要

2 学校区

市立の学校は、相良地域、 棟原地域に1校ずつの 小中一貫校

- ・地頭方地区は、相良地域の小中一貫校に通うことを御前崎市と協議
 - ・牧之原小・中学校は、高台開発計画があるため、再編対象とするかどうか、今後の人口の増減を見て教育委員会が判断

3 形態

施設一体型校舎

- ・校種は別に定める
 - ・校舎の配置などは、計画策定後、学校ごとにつくる「学校施設整備基本構想」で検討

場所

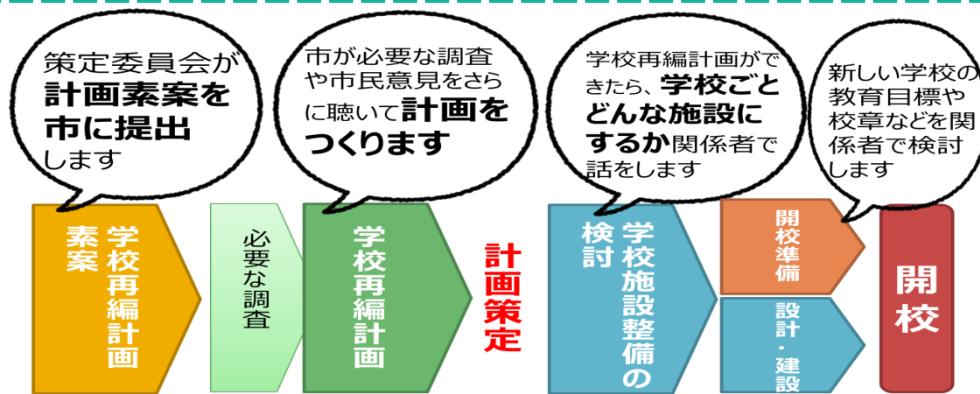
- 相良地域
相良総合センター「い～ら」から
相良総合グラウンド周辺
 - 猪俣地域

- ・津波浸水想定区域外で、自然災害に強い
 - ・できるだけ多くの児童生徒が、徒歩または自転車で通うことができる
 - ・道路やインフラ等の状況を踏まえ、関係部署と連携を図る

開校目標時期 令和12年度 (2030年)

今後の進め方

※素案提出後に市や教育委員会が行うこと



市や教育委員会に配慮してほしいこと

- 1 子どもたちへの支援・ケア
 - 2 多様なニーズへの対応
 - 3 通学方法と通学路の安全性の確保
 - 4 地域性の継続
 - 5 学校施設の効率的かつ効果的な整備
 - 6 既存施設の利活用等の検討
 - 7 学校組合構成市との協議
 - 8 市民への情報発信と意見を聞く機会

通学方法などは学校施設整備の検討のときに具体的に話し合います

[もっと詳しく知りたい方はこちら](#)

- #### ●望ましい教育環境のあり方に関する方針



- ### ●小中一貫教育とは



- ## ●学校再編計画案

